

6 避難所の開設・運営

避難所開設運営班

班長 保健福祉センター所長

班員 職員課、生活課、市民課、国保年金課、児童福祉課

(1) 避難所の開設状況

※「資料3 避難所開設状況」を参照

ア 大震災直後

7,040人の市民及び旅行者が各避難所に殺到した。特に新幹線が運休したことにより多くの乗客が足止めされ、明成高校をはじめ各避難所に避難した。

イ 3月17日時点

3月11日から浜通りの広域避難者が増え始め、本市の避難所では不足し、県は、あづま総合運動公園、県立高校を次々と開設し、広域避難者は3月17日がピークとなった。

ウ 3月18日以降

広域避難者は、本市避難所からさらに遠方に避難する者、また、災害救助法による借り上げ住宅(アパート)入居やホテル・旅館一時受入事業(H23.4.11～H24.2.20)、仮設住宅の建設(H23.5.26～入居)により、徐々に避難所から引き上げた。

エ 7月12日

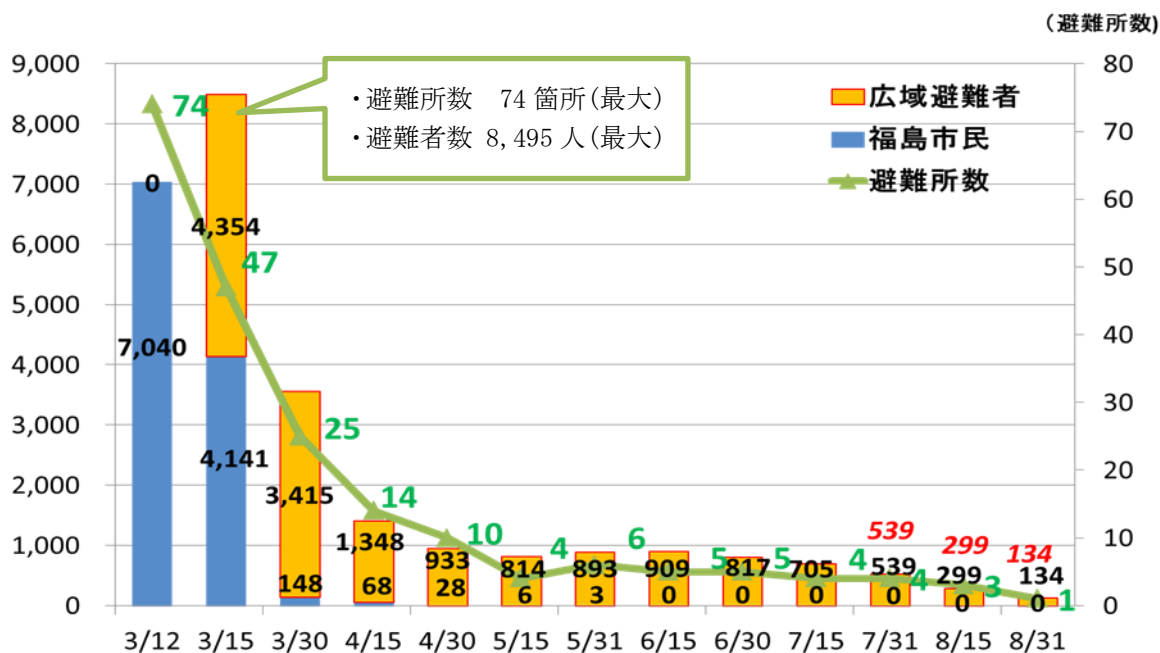
本市開設の避難所は、パルセ飯坂を最後に全て閉所した。

オ 9月24日

県開設の本市内の避難所は、あづま総合運動公園を最後に全て閉所した。

(福島県教育センターには相馬農業高校飯館校生約22名を受け入れていたが、当初の避難所としての取り扱いから学生寮としての位置づけとして継続となった。)

避難所数・避難者数の推移



(※表中、「福島市民」には浜通りを除く旅行者が含まれる。)



あづま総合運動公園体育館



避難所での市政だより速報版の貼り出し

(2) 避難所駐在員の割り振り 職員課

最大74箇所の避難所となり、24時間体制となるため駐在する職員が不足する状況の中、避難所開設運営班(職員課)より各課に避難所駐在員を割り振り動員した。

また、自治労から延べ1,409名(人数×日数)の派遣協力員の支援を受け、主に避難所駐在員として配置した。

最大動員日：3月15日(避難所数74箇所、職員配置避難所数61箇所、204人体制(12時間交替)、延べ408人の動員)

(3) 避難所情報の集約 納税課

各避難所からの必要物資、食事数などを集約して本部に報告した。

ア 対応期間 平成23年3月12日(土)～4月1日(金)まで

イ 報告内容

- ①避難人員数
- ②浜通り避難者数
- ③必要食事数
- ④必要物資(種類、数量)
- ⑤避難者の健康状態
- ⑥避難所で直接受領した物資(本部送達分は除く)
- ⑦炊き出し等の人的ボランティア内容
- ⑧その他

ウ 報告

- ①報告回数：当初は、1日3回
- ②午前9時：上記①～⑦の内容を9時30分まで報告
午後3時：上記③及び緊急事項のみを報告
午後7時： //

(4) 避難所の状況(例：3/29午前9時)

A 一般避難所(市駐在アリ、市配送アリ)																	
No.	避難所	電話番号	特記事項	担当課	直近 連絡	避難 者数	うち 床通り	健康状態	食料	飲料水	毛布	必要物資	トイレ	停電	水道	暖房(IT・油)	備 考
1	北信 支所・学 習センター	内線0017 554-1115	3/29PM 吾妻LCへ移設 後閉鎖予定	障がい福祉課	3/29 9時	7	0	OK	30 (鎌田集会所分舎)	OK	OK		OK	OK	OK	OK	◆食事は北信・鎌田集会所分。 ◆北信閉鎖後、鎌田集会所への食事配送調整要。
2	吾妻 支所・学 習センター	内線0026 526-3353		福祉課	3/29 9時	15	0	OK	15	OK	OK		OK	OK	OK	OK	◆北信・吾妻避難所閉鎖、移設により夕食は30食依頼 予定。
3	飯坂 支所・学 習センター	内線0022 542-2122		学校職員	3/29 9時	27	27	避難者女性1名不眠により通院 し緊急服用。(3/29は受診予約) ※原因はストレス。	32	OK	OK		OK	OK	OK	OK	
4	信夫 支所・学 習センター	内線0025 548-5207	3/29PM 吾妻LCへ移設 後閉鎖予定	障がい福祉課	3/29 9時	9	0	OK (※備考参照)	15	OK	OK		OK	OK	OK	OK	◆重軽子の児童障害者1名 ◆オーストラリア名は3/28退所済。
5	学野 + 杉妻 学習セン ター	545-5717 支所0012		学校職員	3/29 9時	12	0	OK	12	OK	OK		OK	OK	OK	OK	
6	学野 + 吉井田 学習セ ンター	546-3445 支所0019		福祉課 監査	3/29 9時	23	23	OK (※備考参照)	23	OK	OK		OK	OK	OK	OK	◆第一病院入院者(継続)1名。
7	学野 + 清水 学習セン ター	557-7400		情報管理課	3/29 9時	70	70	OK	80	OK	OK	【未着】ほろろき(4本)	OK	OK	OK	OK	
8	学野 + 蓬萊 学習セン ター	549-1821		市民課 福祉課 長寿福祉課	3/29 9時	28	17	OK	37	OK	OK		OK	OK	OK	OK	
9	高校 椿高校	535-3395 携帯:080- 5949-7829		市民税課	3/29 9時	37	25	OK	40	不要	OK		OK	OK	OK	OK	◆県政本部よりヒートテック等の支給有。 ◆ヘアネットの水の支給は不要。
10	バルゼ いいざか	542-2121 携帯:080- 5949-7830		都市政策部、林 業課、福祉課、 福祉課、福祉課 会館、市OB	3/29 9時	434	434	OK	470	OK	OK	【未着】ハンガーラック掃除機(1台)、専用紙バグ(1 個)、ゴミ袋(700)(2枚)	OK	OK	OK	OK	【参考】 ◆ゴミ収集希望。2週間分のゴミ山積となり不衛生。
11	福島テルサ	521-1500 携帯:080- 5949-7831		管理課 農業委員会	3/29 9時	70	20	風邪数名、糖尿病1名、人工透 析1名	90 (避難者数+20)	50本 (2L)	10枚		OK	OK	OK	OK	◆近所で帰宅可能の人がいるが、備らない一自立困難にな る可能性あり。
12	鎌田集会所	554-5886		職員課	3/29 9時	11	0	OK	0 (北信支所に計上)	OK	OK		OK	OK	OK	OK	◆食事は北信支所分に含む
13	飯野地区 体育館	携帯:080- 5949-7832		飯野支所 飯野学C	3/29 9時	94	94	OK	94	OK	OK	【未着】ミミ袋(900)(2枚) 【新規】洗濯用石鹸(5箱) ※アタック等。	OK	OK	OK	OK	
14	十六沼体育館	558-6151 携帯:080- 5949-7833		市民税課、京 産税課、下水 道税課、鎌田 小学校	3/29 9時	72	72	OK	80	OK	OK	【未着】ヤカタン(2個)、おがけス(1個)、赤ちゃん用 おやつ、赤ちゃん用飲み物 【新規】ラローブ(2巻)	OK	OK	OK	OK	【本対応】◆早期こみ収集希望(可搬)。 【本対応】◆移動図書館希望。
15	南体育館	携帯:080- 5949-7834		農業委員会 事務局、 観光課、市OB	3/29 9時	163	163	OK	昼食不要	OK	OK	【新規】くつ下(男性用・女性用)(各30組) ゴミ袋(900)(11枚)、灯油ホップ(1本) 【未着】スリッパ(50組)、体温計(2本)	OK	OK	OK	OK	◆3/29夕食は近所のカレー屋さんから差入れ予定。
合 計					3/29 午前9時	1,072	945	→.:市民 127人									

B 広域避難所(市駐在ナシ、市配送アリ)

No.	避難所	電話番号	特記事項	担当課	直近連絡	避難者数	うち浜通り
1	高校 福島高校	535-2391		【県対応】	3/29 9時	100	100
2	高校 県工業高校	557-1395		【県対応】	3/29 9時	95	95
3	高校 北高校			【県対応】	3/29 9時	139	139
合 計		3/29 午前9時				334	334

C 広域避難所(市駐在ナシ、市配送ナシ＝県配送)

No.	避難所	電話番号	特記事項	担当課	直近連絡	避難者数	うち浜通り
1	高校 西高校	546-3391		【県対応】	3/29 9時	124	124
2	高校 商業高校	553-3451		【県対応】	3/29 9時	176	176
3	高校 東高校	531-1551		【県対応】	3/29 9時	156	156
4	高校 明成高校	546-3381		【県対応】	3/29 9時	83	83
5	高校 南高校			【県対応】	3/29 9時	80	80
6	その他 あづま総合運動公園体育館	593-1111		【県対応】	3/29 9時	1,555	1,555
7	その他 自治研修センター			【県対応】	3/29 9時	230	230
8	その他 ハイテクプラザ福島技術支援センター			【県対応】	3/29 9時	4	4
9	大学 福島大学			【県対応】	3/29 9時	119	119
合 計		3/29 午前9時				2,527	2,527

3/29 午前9時 一般+広域避難所(A+B+C) (前日比)

市民127 (▲40)

浜3,806 (222)

合計3,933 (182)

(5) 被災者お見舞い

ア 天皇皇后両陛下

平成 23 年 5 月 11 日

あづま総合体育館で被災者のお見舞いをなされた。



福島市では、昼食に福島県産の野菜がふんだんに入った弁当を召し上がったという。

瀬戸孝則市長によると、食事の席で陛下は、「おいしい桃を前にいただきました」と話された。皇后さまは「風評被害が心配ですね」と案じられたという。帰りには県産野菜を私費で購入されたことも明らかになった。

(皇室ウィークリーより)

イ 常陸宮同妃両殿下

平成 24 年 1 月 17 日

福島市松川工業団地第一応急仮設住宅で被災者(飯館村住民約 400 人)のお見舞いをされた。

ウ 秋篠宮同妃両殿下

平成 25 年 5 月 9 日

飯野町の飯館中学校仮設校舎を訪問され、飯館の中学生を激励された。

また、それに先立ち、放射性物質を含む下水汚泥を乾燥処理する堀河町の福島市下水道管理センターを視察された。

(6) 広域避難対策

企画経営課

ア 市民及び広域避難者の対応(初期段階:発生～5日目)

地震発生日(平成 23 年 3 月 11 日)から、5 日目(平成 23 年 3 月 15 日)までの初期段階において、市内の小中学校・学習センターなどの公共施設が避難所となる。

それらの施設での受け入れが困難になってからは、県立高校やあづま総合運動公園、福島県自治研修センターなどの開設を県に要望。

各避難所においては、水・食糧・毛布など支援物資の配給がままならず、避難者の心的ストレスが増していた。

(ア) 避難所対応

地震直後、渡利地区の状況を把握するため学校・保育所など公共施設を巡回、耐震性が乏しい渡利中学校の避難者を支所へ誘導。

ハイテクプラザ福島技術支援センターの避難所運営を任され、主に県外の帰宅困難者(新幹線で移動中に被災した方々)の対応、又、蓬萊学習センターにも職員を駐在配置した。

(イ) 避難所開設

県災害対策本部に対し、県所管施設の開設を要求。

浜通り避難者からの電話問い合わせが殺到し、開設された避難所を案内。

(ウ) 避難者名簿の作成

各避難所の避難者数を把握するため、避難者名簿を作成。

避難所における避難者数の状況を掌握。

食事や必要物資の手配・配送に活用。

(エ) 生活相談受付票

ひとりひとりの状況をより詳細に把握するため、ケガ・病気の状況、家屋の破損状況、帰宅困難理由、今後の見通しなどを自筆にて記入。

状況に応じて、保健師、資産税課、その他の課へ情報提供。

イ 広域・市民避難対策(中期段階(5日目~25日目(4月5日))

5日目から20日目の期間も、浜通りから避難する方が絶えない。大きな余震があると、市民も避難所に来所。

民間避難所と小中学校は、業務、事業の再開のため閉鎖の必要性が高まってきた。

ただし、広域避難者は福島市に避難してくる間、5回以上の避難所移動を経験し、これ以上の移動に対して強く抵抗感を示していた。そのため、避難所の閉鎖・統廃合には、最善の注意を払い、オーダーメイドの対応が必要となった。

◇ 避難所閉鎖業務(統廃合前)

○ JRA 福島競馬場

「JRA が市指定避難所ではない」こと、「代替施設を用意している」ことなどの理由を市から説明。

地図や移動手段を確保(マイクロバス)

ガス欠車両はJRAに駐車させてもらう。

- ・平成23年3月17日(木) 騎手宿舎で説明(要した時間:60分)

混乱を避けるため、「世帯の代表のみ」館内放送でお呼び出しする。

次の避難所までの地図を配布。

主な質問:ガス欠車両をどうするか?病院・通院について

- ・平成23年3月18日(金)閉鎖し、下記代替施設へ誘導

広域 ⇒十六沼公園体育館

市内 ⇒清水学習センター or 帰宅

○ 南向台小学校・・・浜通り避難者の大規模移動

市内小中学校の中でも、南向台小学校は200名を越える広域避難者が避難していた。

- ・平成23年3月19日(土)

周知文配布

- ・平成23年3月20日(日)

説明(1時間半)・・・水道の復旧した南体育館への移動

準備したもの:南体育館への地図、ガス欠車両表示板、マイクロバス

主な質問:ガソリン要求、移動手段について、

「また避難所を移動しなければならないのか!!」

- ・平成23年3月21日(月)・・・閉鎖

車が無く見ず知らずの方に連れてこられた女性などがマイクロバス移動。

ガス欠車両無し。

⇒3月23日(水) 市内全ての小中学校避難所を閉鎖。

○ 県立橘高等学校・・・市職員駐在で唯一の県立高校

市内の県立高校避難所の中で、橘高校だけが唯一福島市職員が駐在し、食事配送の両面で運営していた。(他の県立高校避難所は、市駐在無しの配送ありもしくは市駐在無しの配送も無し。)

避難者の年齢をもとに、次の避難所移動先を2つに分けた。

【避難所閉鎖方針】

広域避難者の移動予定先である飯坂学習センターには、すでに南相馬市民が多数避難。

和室はいっぱい、アリーナでの寝泊りとなることから、60歳以上の高齢の方は、和室のある敬老センターへ移動。

・60歳以上(市内・市外) ⇒ 敬老センター

・60歳未満(市外) ⇒ 飯坂学習センター

※60歳未満(市内)はいなかった。

【閉鎖】3月31日(木)

○ 福島テルサ・・・複数の小部屋

3月31日現在、名簿上で市民30名、市外40名が避難。

【課題】

①複数の会議室、ギャラリー、廊下などに分散

②複数の持病・障がい(透析、高血圧、車イス)

③犬

【課題解決方法】

①2人1組になり、個別ヒアリングを実施。今後の見通し、持病の有無など全家族から状況聴取。

不在家族は、夕方にテルサを訪問。入口にて待機し、戻り次第ヒアリングを実施。

②通院のし易さ、昼のある避難所など負担の少ない施設へ移動する計画を立てる。

③次の避難所では、車の中あるいは車のそばで飼うことを約束。

【避難所閉鎖方針】

①市外避難者で健康な方 ⇒ 飯坂学習センター

②市内外避難者で通院中の方 ⇒ 敬老センター

③市民避難者で健康で帰宅困難な方 ⇒ 吾妻学習センター

④市民避難者で高齢で帰宅困難な方 ⇒ 働く婦人の家

※帰宅可能者は帰宅

【閉鎖】4月4日

ウ 広域・市民避難対策(後期①段階(4月6日～5月12日))

3月下旬ごろから、徐々にライフラインが復旧し、住宅に問題の無い世帯は帰宅可能な状態になってきた。

しかし、余震が続く、地震の恐怖から帰宅できない方、散乱した室内を片づけ出来ない方など、少人数避難所が乱立する状態となっていた。

また、一部の避難所では、私物が紛失する窃盗事件疑惑、小さな女の子にイタズラをする者などの問題が噴出。

職員も、早朝からの食事配送、24時間体制での避難所管理業務など、疲労がピークを迎え、体調を崩す職員も出てきた。

その後の行政サービスの低下、避難所におけるモラルの低下など、今後考えうる問題の発生を考慮し、さらに統廃合の必要性が高まってきた。

また、二次避難所(旅館)の指定があり、その後の大きな移動の流れが期待されたものの、すでに小中学校に転入学をした子供のいる家族などは、避難所からの移動に対し、激しく抵抗感を示していた。

◇ 避難所閉鎖業務（統廃合後 初期）

○ 吾妻学習センター（16名）、敬老センター（22名）、働く婦人の家（15名）

4/11 現在 153名（市民42名、市外11名）

【対応】

『出張相談会』（生活課、地域福祉課、建築住宅課、企画経営課）
状況を確認し、今後の見込みをつけていく。

【避難者の主な状況】

- ・住宅の損壊（帰宅可能、新居の予定あり） 10名
- ・住宅の損壊（今後の予定無し） 16名
- ・通勤、通学困難 6名
- ・地震恐怖 9名
- ・その他 12名

単身で高齢の方は、理由として地震恐怖がほとんど。対応に苦慮した。

【避難所閉鎖方針】

アパートなどへの入居時期を考慮し、閉鎖日を設定。

【閉鎖】

4/25 敬老センター 5/2 吾妻学習センター 5/2 働く婦人の家

○ 十六沼公園体育館（72名）、南体育館（51名）、飯坂支所・学習センター（24名）

4/11 現在：全て浜通り

【対応】

『個別ヒアリング』
全ての世帯の状況を確認。今後の見通しを調査。

【避難所閉鎖方針】

アパート入居日、二次避難所への移動などを確認し、閉鎖日を設定。

【閉鎖】

5/9 十六沼公園体育館 5/11 飯坂支所・学習センター 5/12 南体育館

○ 市内の県立高校

福島高校77名、県工業高校79名、北高124名、西高72名、商業高校145名、
東高109名、明成高校79名、南高70名 / 計755名（3/31閉鎖の橘高校を除く。）

【県災害対策本部（県教育庁）】

県の対応により閉鎖

4/8 閉鎖……北高、西高、明成

4/9 閉鎖……商業

4/10 閉鎖……福高、県工、東高、南高

エ 広域・市民避難対策（後期②段階（5月13日～7月12日）

この時点で、一般避難所は『蓬莱学習センター』と『パルセ飯坂』の2箇所。

民間避難所『野田町集会所』にも30名以上。

◇ 避難所閉鎖業務（統廃合後 長期）

○ 野田町集会所

最高で87名滞在。うち40名程度は二次避難所へ移動。

南相馬市職員（福島市担当2名）との連携により、避難者の状況に応じ、一次避難所から二次避難所（旅館、仮設住宅、借上げ住宅）へ移動に向けた詳細な状況調査を実施。

二次避難所となる旅館の下見、不動産情報の提供などを行なった。

7世帯 33名が滞在。全て南相馬市（原町区及び鹿島区：20～30km圏内）。

二次避難所の申請の有無、仮設住宅の申請の有無などを確認。

【閉鎖】

6/25 閉鎖 9名：二次避難所及びアパート 24名：南相馬市へ帰宅。

○ パルセ飯坂

最初の状況確認の時点（3月16日）630名で受け入れ限界の状態。

その後、徐々に県外などへ移動し減少。

一方、少数ではあるが新規の避難者も絶えず、全体の把握は困難な状況であった。

5月上旬、100名40世帯程度になり、状況確認作業を始める。

南相馬市8割、浪江町1割、新地町・富岡町1割

【課題解決方法】

5月11日を皮切りに、1週間に2回程度個別相談を実施。

義援金、仮設住宅、二次避難所の申し込み状況確認、

二次避難所を断っている者、全く予定なしの世帯が多数。

二次避難所の再設定を南相馬市に要望。

飯坂温泉など、パルセ近郊の二次避難所で空きができた旅館に移動できるよう配慮を求めた。（旅館⇒仮設住宅の移動で、少なからず空きが出始めた。）そのうえで、二次避難所の下見を実施。

【閉鎖】

7/12 閉鎖 最終日は、浪江町・男性1名

オ 市民避難対策（後期③段階（7月13日～10月）

二次避難所に唯一市民1世帯が避難。

震災直後、蓬萊小学校に避難。小学校避難所閉鎖(3/23)に伴い3月下旬から蓬萊学習センターへ。

5月上旬から二次避難所へ移動。

【対応】

6月14日 最初の状況確認

6月20日 建物二次判定（資産税課）⇒大規模半壊

⇒その後、2週間に3回程度状況確認と不動産情報の提供。

飯舘村の全村避難も重なり、物件検索が困難な状況。

10月5日 借上げ住宅へ移動。

(7) 各種ボランティア活動

各避難所において、学生、婦人会、地元商店・飲食店、各種団体など、さまざまな方から避難所の手伝いや、炊き出し、各種イベントなどのボランティア活動をいただいた。

(例) パルセいいざかにおけるボランティア・イベントの一部

都市計画課

- ・汁物炊き出し
- ・フラワーアレンジメントのボランティア
- ・ヘアカットボランティア
- ・「お薬健康相談所」開設
- ・法律相談
- ・折り紙教室ボランティア
- ・マッサージのボランティア
- ・絵画教室ボランティア
- ・福島陸上自衛隊による音楽演奏会
- ・映画上映会、バーベキュー炊き出し
- ・ヨガ講師によるボランティア
- ・洗顔体験
- ・歯の相談
- ・ふくしまの昔話のボランティア
- ・バルーンアートのボランティア
- ・声のボランティア「むすぶ」心と体のリラクゼーション
- ・ハローワーク等による就職・年金・給与等の相談会
- ・キャラクターショー
- ・クラフト体験
- ・トランペット演奏
- ・フルート演奏
- ・リトミック体操
- ・エステのボランティア